

「岐阜技術士会」へのノスタルジャー

岐阜県技術士会会員 尾関紀嗣

本年は9月24日から26日まで日本技術士会の全国大会が岐阜で開催され、大成功裏に終了し、岐阜県技術士会がその主催者側の中心的役割を担っていることは大変喜ばしいことであります。

岐阜県技術士会がこの大役を果たせるまで発展してきたかには、渡辺代表幹事の献身的な努力に負うところが大きいです。岐阜県技術士会の活動は全国的にも注目を集めており、その積極的な活動や協調性は従来の技術士活動では類を見ないものであります。

「岐阜県技術士会」は、本部の県単位活動を活発にするという意向なども踏まえ、昨年（平成13年）5月に「岐阜技術士会」という名称から変更されました。

旧来も〇〇県技術士会と県名を付した技術士会が多い中で、なぜ「県」をつけない岐阜技術士会が誕生したのでしょうか。ここまで大きく成人してきた「岐阜県技術士会」の発展の過程を考える上で、平成4年から平成13年の足かけ10年間の揺籃期、少年期を過ごし、その体力づくりに貢献してきた「岐阜技術士会」の名前の由来を振り返ってみるのも必要ではないかと、その名称に愛着を感じずる者として、鎮魂の意味もこめて書き記します。ただ記憶が定かでない部分もあり、間違っていたり欠けたりしているところもあるかと思えます。関係者で当時をご存知の方は加筆、訂正をしていただければ幸いです。

書き終わってみると、かなり省略したつもりですが、長文、駄文に流れました。センチメンタルな一技術士の戯言と読み流して頂いて結構です。

1. プロローグ

私は四日市に在住しており、技術士に合格したのは平成2年です。同期で合格された方に花井（愛知県）さん、高木（俊）（岐阜県）さんがおられ、いずれも分野は化学です。合格した年の3月には恒例の新合格者の歓迎会があり、参加しました。その時、挨拶をされた方の中で、少し言葉は違うかもしれませんが「技術士とは一匹狼で仕事をする職業です」というようなことをいわれた方がおられました。受験するまでは弁護士、公認会計士などとともに日本における三大資格であり、前二者と同じように職業資格であると思っておりましたが、この挨拶を聞いてこれは少し違うぞと感じました。

その後1年経過しても何ら状況の変化は起こりませんでした。次年度の歓迎会の席で当時の支部長であった真田先生（化学）に、化学の分野で何か仕事の依頼はくるのですかと尋ねたところ、何もありませんという返事でした。それでは技術士の皆さんはどうされているのですかとさらに追いかけて尋ねると、商工会連合会のエキスパートとか工業技術センターの技術アドバイザーなどに登録してそこから仕事を廻して貰っているとのこと、ではその制度にはいつでも登録できるのですかと問えば、欠員が出ないとだめです。……。

このままではだめだ、どうするか???

このとき花井さんも高木さんも現役、尾関はあと数年で定年ということもあ

って、当面情報交換をやるとういうことで「HOT」の会を作り毎月1回名古屋駅周辺に集まり、居酒屋で気炎を上げました。HOTのHは花井、Oは尾関、Tは高木の頭文字です。（実際は会って飲むのが目的；当時小林旭の「熱き心に」もまだ全盛期でした。）。

そのうち、やはりメンバーを増やさなくてはということで、化学部門の浜田さん（岐阜県）に声をかけたところ賛同を得ましたが、活動は岐阜を中心にしたいたいということでした。私は活動拠点はどこにあっても良いと考えていましたし、ともかく活動を開始することが先決であると考えてもいましたので、花井、高木両氏に凶ったところ花井さんは現役でもあり岐阜は遠すぎるということであり、話し合いの結果HOTの会は解散することにしました。

そのうち浜田さんから、すでに岐阜県には技術士懇話会があり、これを無視することも出来ないという意見が出され、浜田さんに仲介の労をとっていただき、関係者が集まることになりました。

岐阜地区技術士会（仮称）の名の下に、平成4年3月19日（木）に**第1回の会合**が岐阜県勤労福祉センターで開かれました。そのときのメンバーは当時懇話会の代表幹事であった西迫先生、それに浜田、渡辺（中部支部幹事）、奥村、鰐坂、吉田、田中（秀）、高木（俊）の各先生と尾関、それに岐阜県技術士懇話会（このときは懇話会でなく懇談会で会ったかもしれない）の立ち上げに関与された武田（和）先生（現在、滋賀県在住）であったと思います。

その時のテーマは、「岐阜地区に於ける技術士業務活性化」についてでありました。

2. 活性化への足取り

第2回会合は、平成4年5月30日（土）に同じく勤労福祉センターで開催されました。出席者は、濱田、渡辺、田中、高木（俊）、吉田、奥村、鰐坂、尾関（順不同）の各先生。前述の武田先生が出席されたかどうかは記憶が定かではありません。

第3回は平成4年7月18日（土）に同じ場所で開催された。出席者は第2回のメンバーに西迫、足立（初めて参加）の両先生でありました。このころから、当初の「有志でもって技術士活動を活発にし業務の拡大を」という目的から、「技術士会」そのもののあり方の方に話がシフトしました。

しかし一応、岐阜地区技術士会（仮称）と岐阜県技術士懇話会の合同会議の形で会合が進行しており、話題として中部支部との関係をどうするか、またビジネス業務の支援をどうするか

<p>出欠緊急連絡先 電話0五八三二一七―六四七0 鰐坂まで</p>	<p>会費 三千円 食事代と会の維持費を含む</p>	<p>場所 岐阜市鶴田町三―七―一 電話0五八二―四五―二四一―</p>	<p>期日・時間 平成四年一月七日 一七・〇〇―一九・三〇</p>	<p>謹啓 向秋の折から、益々ご健勝にてご活躍の御事と拝察申し上げます。さて、去る9月5日岐阜県技術士懇話会の開催につき、有志が参集の上今後の進め方などフリートークキングを行いました。その結果、今後の会合を奇数月の第1土曜日ごとに開催することにし、会合の参加者から（会費）+（会の維持費用として千円程度）の会費を徴収する案になりました。次回はとりあえず付記の通り決めましたのでご参集をお願い致します。</p> <p>會員各位の専門や立場はことなりますが、各位にとつて大なり小なり有益な会とするよう、出来るだけ多くの先生方にご参集いただき、会の運営方法や、話題や講話の掘り起こしの方策につき有益なご意見を承りたく存じます。多くの先生方の御参加をお待ちしています。</p> <p style="text-align: right;">敬具</p>
--	--------------------------------	--	---------------------------------------	---

図 1

で協同組合的組織の設立案なども出てきました。

第4回は平成4年9月5日に開かれました。このときの出席者は前と同じであったと思いますが定かではありません。ともかくメンバーを増加させないことには、会も活発にならないだろうということで、岐阜県技術士懇話会（代表幹事：西迫先生）が県内の技術士有資格者に声をかけることになりました。その時の案内状が図1である。そして会合も奇数月の第1土曜に開催することが決められた。このルールは現在でも引き継がれています。

第5回は、平成4年11月7日（土）に開かれています。このときの出席者は以下の方々であったと思います。もし漏れている方がおられましたら、名乗りを上げて頂けたら幸いです。

鱒坂（建設）、足立（電機・電子）、池田（建設）、内田（機械）、
奥村（金属）、尾関（化学）、加藤（央）（機械）、高木（俊）（化学）、
高木（敏）（化学）、西迫（機械）、西田（建設）、長谷川（廣）（電
機・電子）、濱田（化学）、堀（建設）、吉田（情報処理）、渡辺（機
械）

議題は「会のあり方」が主題でしたが、一度では決まらず順次決められるところから決めていくと言うことで継続審議となり、かつビジネス業務の拡大という面から、独立技術士の協業化即ち協同組合の設立も継続検討することになりました。このときの決定事項は、

会の名称： 岐阜技術士会

会の幹事： 渡辺（代表）、加藤（央）、西迫、濱田、鱒坂、
奥村、尾関

ということでありました。

会の名称が「岐阜技術士会」と「県」を抜いた名称になったのにはいきさつがあります。まず、第一は技術士会の活動が東京を中心に関東地区に偏っている。この頃は「地方からの情報発信」が叫ばれた時代で、我々としても広く情報発信するには岐阜に拠点を置いて活動する技術士グループということで、ローカルなイメージを持つ「県」は付けない方がよい。第二の理由は、当初会員の定義を「岐阜県内に住所または勤務先を持つ技術士」という案が出されたが、そうなるとこの条件のいずれにも該当しない私などはどうなるのか、また東京在住で元本部副会長の鈴木清先生（農業； 美濃加茂出身）も参加したいと言われているという情報もあつたりして、岐阜（県）にゆかりのある人あるいは会の活動に関心のある人まで含めるという意味を込めて、なおさら「県」を外そうということになった経緯があります。

代表幹事には、中部支部の幹事をしておられた渡辺先生に、支部とのパイプを持つと言うことで就任していただきました。

第1回 岐阜技術士会例会 平成5年1月23日（土）

岐阜県勤労福祉センター 17:00～

第1回例会の主席者は、

鱒坂（建設）、足立（電気・電子）、池田（建設）、内田（機械）、奥村（金属）、尾関（化学）、加藤（機械）、川浦（機械）、北神（機械）、河野（電気・電子）、高木俊一（化学）、高木敏行（化学補）、田中（情報）、中川（邦）、西迫（機械）、長谷川廣（電気・電子）、吉田（情報）、渡

辺好啓（機械）、特別参加（講師）渡辺恭志（シャープ）

新たに岐阜技術士会としての活動の第一歩が始まりました。このときの渡辺代表幹事の案内文の冒頭は「今年も終わりに近づき、あわただしい毎日となりましたが、皆様も忙しくご活躍のことと思います。再び活動が始まったばかりで運営方法も内容も充実させるまで至っていませんが、順次改善されていくと考えています。皆様に気軽に出向いていただき、顔なじみになっていただく事で、会も充実してゆくことになるのではないのでしょうか。」というものでした。渡辺代表幹事（現岐阜県技術士会代表幹事）の「まずは顔なじみになりましょう」というこの思いは現在も綿々と続いています。

この第1回でのトピックは、渡辺代表幹事の御舎弟でシャープ（株）中央研究所 主任研究員渡辺恭志氏による講演でタイトルは「CCD開発と今後の動向」で可成り高度な内容でした。渡辺代表幹事からは、①技術分野の話題、②産業界の話題、③技術士業務についてと身近な話題が提出されました。これが例会で、毎回会員が講演をするトリガーになり、第2回例会では加藤（央）先生が「経済の波動」という題で長引く不況はコンドラチェフの50年周期説の第4回目の谷間にさしかかっているという話をされました。まさに現時点がその底かも知れません。第3回の例会（5月）では奥村先生が「中国見聞記」と題する話をされてから現在まで続いてきています。まだ当番が2回目の講演者が現れていないのは、それだけ会員が増加したという一つの証でもあります。

第2回岐阜技術士会例会 平成5年3月6日（土）

今回から例会に先立ち幹事会を開き、討議内容を例会で報告することになりました。幹事会での討議内容は、①幹事の役割分担について、②岐阜技術士会の拠点について、③今年度の行事計画についてでありました。

第3回岐阜技術士会例会 平成5年5月15日

この頃から実務的な活動も始まり、幹事会での話題も 各務原商工会議所や岐阜大学地域共同研究センターなどとのコンタクト、かかみはら産業フェア（テクノボックス'93）に無料相談窓口を設けるなど具体的な話題になってきました。

第4回岐阜技術士会例会 平成5年7月17日（土）

この回から参加者による近況報告が始まりました。現在も行われている行事で、渡辺代表幹事の思いが込められています。

この回の幹事会で、10/1～10/3まで開かれる中部機械産業展（MIG'93； 場所：岐阜産業会館）に参加することが決まり、準備にはいることになりました。しかしここで問題になったのが資金であります。

借用するブース代が高いと言うことで、岐阜県労働安全衛生コン



サルタント会を勧誘し、ブースを共用することで費用を折半したり、また展示する物がないので、ポスターや幕など関係先で安く作ってもらったり、技術士事務所を表示する看板は、広告を希望する技術士が費用負担をして作成しました（負担額は1万円/人だったと記憶しています）。

このようにいろいろなイベントに無料相談窓口を設け技術士（会）の宣伝をやってきましたが、そのうちパンフレットなどを置くマガジンラックが欲しいということになり、購入しようとする結構高価でした。

ある時、笠松の工業技術センターの近くの喫茶店へ入ったとき、玄関口に古いマガジンラックが放置されているのを発見しました。加藤（央）先生が交渉し、無料で譲り受けました。それを小生が持って帰り、ねじを新調し、さびを落とし、ペンキを塗って回生させ、イベントで使用しました。これが結構重宝で、各イベントで使用され、ついには中部支部の事務所（名古屋市立工業研究所内）で常時使用されるようになりま



までになりました。中部支部の事務所が花車ビルに移ってから、尚健在で技術士会関連のパンフレットの置き場として活躍しています。

貧すれば窮する、窮すれば知恵が浮かぶで、この頃は皆で協力し工夫したものです。これには加藤（央）先生の企画力と行動力が大いに貢献しているのですが、今思えば楽しい時でもありました。

第5回岐阜技術士会例会 平成5年9月4日（土）

第6回岐阜技術士会例会 平成5年11月6日（土）

無料相談窓口への来訪者に対するフォローアップをどうするか。

すぐ礼状を書く、電話をかける、訪問するなどアクションプランが出され、業務開拓の行政機関、研究機関、民間機関などへのアクセスも含め分担を決め実行することになりました。当時はいずれも手弁当でした。

第7回岐阜技術士会例会 平成6年1月29日（土）

継続検討されてきた業務の協業化については、アンケートにより幹事の忌憚のない意見を出すということになり、集約の結果は時期尚早ということで、今後テーマ毎にプロジェクトを組んで対応することになりました。しかし、このことは途中紆余曲折はありましたが、中部技術支援センターの設立につながっていきました。

この会で、会の規約の作成、芳名録の作成、事業計画の作成などが議題となりました。

第8回岐阜技術士会例会 平成6年3月5日（土）

規約の作成、名簿の作成は担当を決めて実行することになりました。名簿作

成ではいつもながら会員資格が問題となり、正会員と準会員の扱いをどうするかが議論され、支部からの指摘もあり、岐阜技術士会として活動には区別しないが、名簿の中では明記するという事に落ち着きました。

(9月例会では、準会員の欄は空欄にすることになりました)

第9回岐阜技術士会例会 平成6年5月7日(土)

技術士会の定番(毎年全国の2個所で開催)である「地方公共団体職員と技術士の合同セミナー」の開催を岐阜技術士会で引き受けて欲しいという依頼があり議題となりました。結論としては今すぐは無理と言うことで、今年は準備段階にすることにしました。実際には2年後平成8年9月11日に未来会館で開催され、タイトルも「地方公共団体と大学と技術士会との合同セミナー」と改名し、産官学の連携がうたわれていた時代に即した内容のセミナーになりました。ただこのタイトルについては、本部の方から変更無用のクレームがきましたが、我々は時流に即したものとして、強引に開催しました。岐阜技術士会として主催者側に立ち開催した最初の大きなイベントでありましたが、関係する各機関に大きなインパクトを与え、岐阜技術士会もなかなかやるぞという評価を得ました。そして、この方法は以後の開催に影響を与えました。ただこの成功の裏側には並々ならぬ努力があります。特に加藤(央)先生の企画力と集金力に負うところ大ですが、これは別の機会に譲ります。この成功が今回の「全国大会」の成功にもつながっていると思います。

第10回岐阜技術士会例会 平成6年7月9日(土)

第11回岐阜技術士会例会 平成6年9月3日(土)

第12回岐阜技術士会例会 平成6年11月5日(土) 出席者23名

名簿の完成報告。評判良し。頒価¥2,000としました。

平成7年5月の例会は総会とする案が出ました。これは設立総会ではなく、会が体裁を整えてきたので活動年度の導入を図り、はじめのための総会とする事に決まりました。

岐阜技術士会の事務所を県のシンクタンク内に設けないかという勧誘を県から受け検討に入りました。この結果がVRテクノセンター内にある現事務所ですが、実際の入居はまだ後のことです。

第13回岐阜技術士会例会 平成7年1月21日(土)

第14回岐阜技術士会例会 平成7年3月4日(土)

幹事会は総会に向けての準備で多忙。

平成7年度岐阜技術士会定期総会 平成7年5月13日 16:00~

主席者34名で開催されました。会規約、新役員、年会費制導入、事業計画、年度予算の承認が行われました。新役員は以下の通り(敬称略)で新しい体制が出来上がりました。

会長 渡辺好啓(機械)
副会長兼会計 加藤 央(機械)

業務委員長	尾関紀嗣（化学）
幹事	鱒坂卓之（建設），奥村泰廣（金属）， 西迫俊二（機械），濱田 偉（化学）
監査	吉田正宏（情報処理）

事業計画の中に見学会があり，これは7月に県工業技術センター，10月に三洋電機（株）岐阜工場の見学を行いました。

また業務開拓として，WGを設置して勉強から始めるということで，次のグループが発足しました。

- | | | |
|---------------------|------|------|
| (1) ISO9000及びPLグループ | リーダー | 北神先生 |
| (2) マルチメディア関連グループ | リーダー | 高岡先生 |
| (3) 規制緩和と技術士業務グループ | リーダー | 濱田先生 |
| (4) 省エネルギー関連グループ | リーダー | 鱒坂先生 |
| (5) 特別テーマグループ | リーダー | 尾関 |

しばらく調査をして頂いたが，(1)のグループは調査よりもすぐ実務に結びつけたいということで，ISO9000グループ(北神)とPLグループ(尾関)に分離して活動を始めました。(2)のグループはHPやeメールなどで技術士活動のPRをするところから始め，途中リーダーが高木(俊)先生に代わりましたが現在も続いています。

(3)のグループは，濱田先生に調べて頂きましたが焦点が絞りにくいということで中断しました。また(4)のグループも幅が広すぎるということで中断しましたが，これはテーマを細分化して調べるべきではなかったかと一寸残念な分野であったと思っています。(5)については地方の活性化ということでいろいろのプロジェクトがあり，その中で「いきいき体験パーク」の様なものに関与できないかと可児市や白川町のプロジェクトにアクセスしましたが，いずれも予算の確保という面で問題があり断念しました。

ISO9000グループは，小生がたまたま別件で訪問したS社がISO9000を取りたいという希望があり，我々に指導させて頂けませんかとお願いしたところ承諾を得ました。これが最初の物件で，我々も勉強しながらの指導でありましたが，現在のISOコンサルの基礎をなすもので，いろいろ資料提供をして戴いた高垣先生やS社にはいまでも感謝しています。

PLグループは，既に中部支部が東海海上火災保険と提携し，PL問題の技術評価を請け負っていましたので，それに関与した形で活動を始めました。最初の1～2年は可成り依頼物件もありましたが，次第に尻つぼみになり自然消滅の形になりました。しかし勉強会は続き昨年「O104G」と名称変更するまでケーススタディーが行われてきました。

第15回岐阜技術士会例会 平成7年7月3日（土）

第16回岐阜技術士会例会 平成7年9月2日（土）

第17回岐阜技術士会例会 平成7年11月4日（土）

第18回岐阜技術士会例会 平成8年1月27日（土）

「地方公共団体との合同セミナー」に関する具体的な検討が始まりました。

第19回岐阜技術士会例会 平成8年3月2日(土)

3月23日には岐阜大学の主だった先生方との懇親会を持ちました。

平成8年度岐阜技術士会総会 平成8年5月18日(土)

ほぼ形の整った総会報告となり、会の活動も定着してきました。皆に技術士会の活動を理解して戴こうと幹事の増加案が出され、増員をはかることに決まりました。

以下主な行事のみ記せば、

平成8年9月11日 「地方公共団体と大学と技術士会合同セミナー」を開催。於いて「未来会館」。

平成8年11月 岐阜県士業連絡協議会へ加入しました。

平成9年5月10日 平成9年度総会開催。

平成9年7月 VRテクノセンター開設される。

平成9年9月5日 9月度例会
幹事の役割分担が示され、(新)事務所開設・運営委員会が活動を始めました。

平成9年9月23日 (有)中部技術支援センター(CTSC)設立。
WG活動の中で、実業務はCTSCへ、勉強会等はWGとして岐阜技術士会の中に残る。

(CTSC設立の発端は、中川(邦)先生と渡辺先生が支部幹事時代の平成7年頃に、これからの技術士活動はビジネス業務の展開で達成されるという話し合いの中から始まったようです。前述しましたようにCTSCが生まれるまでには大変な紆余曲折がありましたが、その辺のところは、いずれ現れるであろうところの「(株)中部技術支援センター社史」にでも譲ります。なぜか私も設立に関与することになりましたが、初代社長は北神先生にお願いすることになりました。また初業務は高垣先生の企画になる技術士受験講座の開設でした。)

平成10年2月 岐阜技術士会として初の出版物となる「中小企業のためのやさしいISO9000の取り方」が日刊工業新聞社から出版されました。大変好評で2001年に新版に改訂されるまでに7回の増刷をしました。

平成11年3月6日 3月度例会
VRテクノセンター内に新事務所が開設され、例会場もそちらに移るため、県勤労福祉センターでの最後の会合となりました。

新事務所の女性職員(パート)中山公子さんが紹介され、新しい動きが始まりました。

これ以降はほぼ現在の運営形態と同じでありますし、皆様の記憶されていることも多いと思いますので省略します。

3. エピローグ

このように平成4年に活動を開始し、丁度10年を経過した昨年本部意向にもよりますが名称が「岐阜県技術士会」と変更になりました。また関連機関で

あるCTSCも有限会社から株式会社に衣換えをしました。10年一昔と言いますが今年は「技術士会全国大会」を岐阜市で開催し、その開催主体を岐阜県技術士会が請け負うという大事業を大好評のうちに成し遂げました。誠に喜ばしいことでもあります。10年前何とか地方から情報発信できるようになりたい、何とか業務を広げたいという思いがまさに実ってきた瞬間でした。

渡辺代表幹事を始め皆々様の努力の結晶ではありますが、何か事をなすには10年という歳月が必要であったとしみじみ感じています。事を為し遂げる体力を養ってくれた「岐阜技術士会」という名前は、単に「県」の字があるかないかでたいした違いはないと思われる方もおれまじょうが、わたしにとっては万感の思いがあります。

全国大会も終わった今、沈静化していた技術士活動を再び活性化させるべく平成4年3月19日に集まった皆様、その後いろいろ協力頂いた皆様へ心からの感謝とお礼を申し上げます。また当初この会の活動に参加され協力頂いた方で、心ならずもこの喜びに浸ることのできなかつた方もおられます。その方々の思いも含め私は、10年間頑張ってくれた「**岐阜技術士会**」の名称を静かに遠くへ送ってあげたいと思っています。

いろいろの価値観を持った人間（あるいは技術士）が、定められた目標に向かって動くということはなかなか至難な事であり、渡辺会長がよく言われる「ベクトルをいかに合わせるかに苦労している」という言葉の中にもうかがい知れます。

しかし人間には何かドライビングフォースがないと動けない面もあります。それには自分でPDCAを回すべきだと私は考えています。

夢（目標）のある人は計画がある、
計画のある人は実行がある、
実行すれば結果が出る、
結果が出れば反省する、
反省する人は進歩がある、
進歩する人には新たな夢が出る。

やはり夢を抱いて活動する。この同じ夢が見られる人が集まれば力強い集団になれるのではと。岐阜県技術士会が証明しています。

2003年には新体制での岐阜県技術士会がスタートします。新たな活動に希望と祝福がありますように。

お読み頂いた方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

2002. 10. 27 記す
2003. 3. 11 改